

高松市総合教育センターだより No.32

〒760-0060 高松市末広町 5 番地
TEL(087)811-2161 FAX(087)811-2170
http://www.edu-tens.net E-mail kyouikuken@edu-tens.net

令和5年3月発行

今年度の「教育フォーラム in 高松」は、「全ての子どもたちのよさや可能性を引き出し、一人ひとりが輝く教育の創造」のテーマの下、東京大学先端科学技術研究センターの中邑賢龍先生をお迎えし、教職員、保護者、専門家が、それぞれの立場からこれからの教育を語り合うものでした。本市の教育課題でもある ICT の効果的な活用、不登校対策や特別支援教育の視点も踏まえ、子どもに向き合う一人の大人として、子どもを理解し、よさを伸ばすために何ができるのかを考える場となりました。モデル校の実践発表からは、GIGA 端末を前提とした教育の在り方が、中邑先生の講演からは、今までの枠組みから離れ、体験から子どもの力を引き出すこと、パネルディスカッションでは、講演を受けて、今後の取組の展望を探りました。中邑先生の「子どもがその特性を発揮させる最適な環境が重要である」という言葉に、一人ひとりの大人が関わり方を考えていくこと、連携により豊かな学びを生み出すことが、これからの教育に重要であることを改めて認識することができました。皆様の御協力により、有意義なフォーラムとなりましたことに、心より感謝申し上げます。

総合教育センターとしましては、次年度も今年度の成果を生かし、高松の教育実践に寄与してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

高松市総合教育センター所長 宮脇 充広

第6回教育フォーラム in 高松

テーマ **全ての子どもたちの可能性を引き出し、一人ひとりが輝く教育の創造**
—特色のある魅力あふれる学校づくり—

ICTに係る実証研究発表

- 情報活用能力（高松モデル）育成事業 木太南小学校
- GIGA 端末持ち帰り運用事業 屋島中学校



主な取組内容と成果（概要）



木太南小学校
岩田奈穂子 先生

児童が主体性をもち、協働的に学習に取り組むことを目指し、調べたことをまとめるだけで終わるのではなく**学んだことを発信することを目標に総合的な学習の時間の内容を再編**しました。

また、**総合的な学習の時間の年間教育計画に、育成したい情報活用能力（高松モデル）を位置づけること**で、教科との関連を図りながら、系統的に情報活用能力を育成できたとともに、児童が「～をしたい」という願いをもちながら、主体的・探究的な GIGA 端末の活用につながっていました。



屋島中学校
浅野正敏 教頭先生

市教委配付のガイドラインを**学校の実態にあわせて改訂**しました。昨年度の2学期から、**ICT 委員会を発足**し、コンピュータが得意な生徒自らが端末の管理・運用やルールづくりに携わり、生徒への啓発活動にも取り組んでいます。

端末を日常的に活用する場を設けることで、教師・生徒ともに ICT 機器への抵抗感や負担感が軽減されてきました。**持ち帰って授業の続きの課題に取り組んだり、家庭で調べたことを端末でまとめて発表したりする**など、家庭学習を含め、多くの場面で積極的に活用しようという意識が見られました。また、GIGA 端末を持ち帰り、「すららドリル」を使った自主学習を勧めることで、家庭学習に進んで取り組んでみようとする生徒が増えました。



実践発表をとおして・・・「GIGA 加速のための Point」

- Point 1 「情報発信」をゴールとした主体的・探究的な端末の活用 → 情報活用能力の育成の絶好のチャンス
- Point 2 学校での端末 普段づかい → 持ち帰りならではの端末の活用 → 時間・空間の制約を超えた創造的な学びへ

記念講演

- 演題「子どもを伸ばすこれからの学校、これからの子育て」
- 中邑 賢龍 東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー

型にはまった一斉指導にマッチしない子どもたちに、子どもの特性を發揮できる新たな学びの場が必要なのではないか。しかし、枠から抜け出しにくいのが教育現場で、学習指導要領の縛り、入試の縛り、安全性の縛りなどが阻害している。

ICTの強みを生かしたり環境調整をしたりしてみても、欠席連絡はSNSのスタンプじゃダメ？黒板の書き取りはカメラ撮影じゃダメ？覚えるのが難しいならインターネットで調べたらダメ？

学校と反対の教育も考えてみよう。昔は、目的なし、教科書なし、時間割なし、協働なしの生活をベースにした学びの場が地域や家庭にあった。それを公教育に組み込みこむ視点を提案していきたい。



東大先端研の個別最適な学びプログラム LEARN <https://learn-project.com/>

パネルディスカッション

- 演題「全ての子どもたちの可能性を引き出し、一人ひとりが輝く教育の創造」
- (パネラー) 中邑賢龍・溝淵浩二(高松市中学校長会会長・山田中学校長)・阿部ひろみ(スクールカウンセラー)
佐々木俊輔(高松市PTA連絡協議会会長・木太南小学校PTA会長)
- (コーディネーター) 宮脇充広(高松市総合教育センター所長)



宮脇所長

これからの教育・子育てについて語り合しましょう。



阿部さん

『学校はこうあるべき』という枠をちょっと外すだけでも、楽になる子どもたちがたくさんいる。子どもたちの声にしっかりと耳を傾けることが大事だと思う。そのための環境を作っていただきたい。子どもに学ばせれば、私たちは新しいアイデアをたくさんもらえるのではないかな。



中邑先生が、魅力的なプログラムのシナリオを描いていくコツや気を付けていることは？

子どもが自ら盛り上がっていくことが、主体性や学びの原点になる。それぞれの立場でこれからの教育、子育てをどのように考えるか？



学校は、地域につながるためのいろいろな機能をもっている。先生は、勉強だけでなく、子どもにとって『いい大人っていいんだ』というモデルになってほしい。子どもが学校に行きにくくても、親だけでも先生とつながると、何かヒントがあるかもしれない。



子どもにとって何ができるのかを考えさせられる会だった。学校だけでなく、保護者、地域と一緒にすることで、教育に厚みが増していく。教育活動や子育てに今日の話を生かしていきたい。



一斉指導から抜け出しにくい現場であるが、子どもたちの基礎学力をつけようと、各学校で取り組んでいる。困っている子どもを見ると、すぐに手助けをしたりしてしまうことがある。講演を聞いて『待つ』ことの大切さを感じた。授業を進めなくてはどういうプレッシャーがありながらも、子どもたちが考えたり、話し合ったりする時間を大切にしている先生もいる。

6年生を対象とした『学校に泊まろう』というPTA活動を実施した。担当の保護者に『絶対に手を出さない』ということ伝え、子どもたちの自主性に任せることを大切にしたい。子どもたちは、自分の得意なことを發揮しながら、自分で考えて取り組んでいた。意外な子どもの一面が見え、先生にとっても新たな気付きにつながったようである。

子どもにとって魅力的なプログラムであるとともに、親にとっても寄り添えるようなプログラムが必要。「はっ！」と子どもたちがびっくりすること。つまり印象に残ること。わくわくすることがずっと続いていくような工夫をする。達成したことが、良いことと捉えがちだが、プログラムの中では、達成できないことも、ある意味大事なこと。小学校を卒業したら終わりではなく、縦に長く挑戦し続けることが学びになる。

今の枠組みを変えるのは難しいが、子どもたちに失敗させることも大事。「うまくいかないということが分かった」ことが成果だと思う。『自由な発想でやってみよう』と強く熱望する先生を育てていきたい。

子どもの多様な個性を大事にする教育が、一人も取り残さない教育につながるのではないかなと思う。



溝淵さん



佐々木さん



中邑さん



自ら選ぶ学びの場！「放課後ちよいスクール」 & 「ちよいカフェ@高松」

令和4年度に実施した「放課後ちよいスクール」全28回の内容です！

放課後ちよいスクール (Choice, Cool !!)

水曜16時。アツという間の30分。
本年度の詳しい内容は、内部HPでご確認ください。

期日	内容	期日	内容
1	11/1 動物の魅力 —だから愛護はめんどい！—	18	11/18 特別支援学校の理解を深めよう！ 特別支援学校のチェックポイント
2	11/2 今から始めるMicrosoft Teamsの使い方 Teamsで何？	19	11/19 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
3	11/3 本講座の目的の振り返り —実践後もしい教員—	20	11/20 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
4	11/4 特別支援学校と連携する際のポイント —今までの実践—	21	11/21 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
5	11/5 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	22	11/22 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
6	11/6 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	23	11/23 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
7	11/7 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	24	11/24 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
8	11/8 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	25	11/25 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
9	11/9 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	26	11/26 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
10	11/10 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	27	11/27 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント
11	11/11 特別支援学校と連携する際のポイント —実践後もしい教員—	28	11/28 特別支援学校と連携する際のポイント 特別支援学校との連携ポイント

令和5年度も Choice しての参加
(水曜日16時から30分間)を
お待ちしております！

【参考】令和4年度
全28回 実施

TENS
内部 HP を
チェック

令和5年度から「土曜日ちよいカフェ」が
「ちよいカフェ@高松」となりました。昨年度同
様、オンラインで自宅から参加できる自主研
修として、気楽に対話できる空間を参加者の
皆さんと共に創っていきたくと考えています。

ちよいカフェ@高松

R5 Ver. <

- ▶オンラインで自宅からOK！
- ▶すべての教員対象...多様性大事~
- ▶飲み物片手にゆった対話
- ▶参加者の悩みや思いからスタートし、みんなで考え82時間です
- ▶考えはなかなか出ないけど、話す元気になりますよ

自分の考えや問い、分からないことなどを
自由に語り合いませんか？

困っていること、
ヒントがほしい

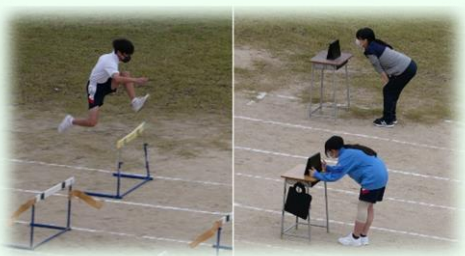
よく分からないこと、
気楽に聞いてみたい！
本音で話したい

ワンテーマで2時間対話。
ちょっとすっきり&ちょっとわくわく。
何でも語れるフラットな場を目指
しています。

GIGA 端末の日常的な活用を目指して【ICT教育推進室から】

ICTに係る実証研究では「情報活用能力（高松モデル）育成」と「GIGA端末持ち帰り運用」をテーマに小学校2校と中学校3校とともに研究を進めました。今回は少しだけ実践を紹介し
ます。研究のまとめは現在作成中ですので、完成次第ホームページで公開します。

情報活用能力(高松モデル)育成



下笠居中学校 保健体育での活用

GIGA端末持ち帰り運用



鶴尾小学校
「オンライン
登校日」での
活用

ICT教育推進キャラクター誕生！！



名前は「GIGA 松」
です。高松の子ども
たちと一緒に GIGA
端末を使って勉強を
頑張ります！



勝賀中学校 授業の振り返りでの活用

特別支援教育推進事業

年長児の教育相談・判定数

教育相談数	就学判定数	年長児相談率
344名	220名	9.6%

在学生の判定数

小	中	計
333名	36名	369名



令和5年度の特別支援学級の人数は、小学校1035人、中学校317人、合計1,352人となる予定で、増加傾向が続いています。

医療的ケア児支援事業

就学前施設	小学校	計
4施設4名	7校9名	4施設7校13名

特別支援教育の充実に向けて

- ・医師などの専門家チームや巡回指導員を各学校に派遣し、校内支援体制づくりや具体的な支援方法等について助言します。
- ・発達性読み書き障害について、チラシを通して理解を広げ、適切な支援につなげています。

不登校対策事業

教育支援センター利用状況

新塩屋町 虹の部屋	みなみ	計
45名	39名	84名



ICTを活用した学習支援システム利用状況

小	中	計
26名	79名	105名

フレンドシップ事業

進路説明会	125名
in サマー	73名
in オータム	90名

不登校を考える会

6月	保護者 53名
9月	保護者 34名

親の会～夜会～

8月	保護者 11名
1月	保護者 7名

カウンセラーによる教育相

約100件

「いじめ相談電話」でも、児童生徒本人や保護者が不登校の相談ができるようにしました。また、多様な学びの場を確保するため、フリースクールなどの民間施設との連携も必要であると考え、「民間施設についてのガイドライン」を運用しています。

※令和5年1月末現在

就学前教育の推進と次年度に向けて

キャリアステージに応じた教職員研修

研修方法を工夫し教職員の学びの場を確保しました

基本・職務研修では、「子どもの学び・トークシート」等を活用し、協議を通して、子どもの育ちを多面的に見取り、「保育の循環・保育の過程」の理解と実践につなげました。

専門研修では、専門的な知識や技能を高め、日々の保育実践の質の向上を図りました。



次年度も

- * 集合研修やオンデマンド・オンライン研修、園・所内研修等、効果的な研修方法を取り入れます。
- * 「教職員育成指標」を基に、自らのキャリアステージを意識し、教職員の主体性を高め、同僚性を発揮しながら互いに学び合える関係の構築を図ります。
- * 子どもが『遊びまくり・遊びつくす』**保育環境の充実**につながる研修内容を企画・実施していきます。

保こ幼・小連携教育

高松市の研究テーマ

「子どもの学びをつなぐ」

持続可能な保こ幼小連携・接続

- ① 気軽に対話できる教職員関係の構築
- ② 子どもの学びの共有と分析
- ③ 連携校区の実態に即した接続期カリキュラムの充実・改善

保こ幼小合研修会では、「子どもの学びをつなぐ」のシート等を活用し、連携校区の教職員が子どもの学びを中心に対話し共有しました。次年度は「互恵性のある交流」「接続期カリキュラムの改善」に取り組みます。



令和4年度開発校区

【檀紙】 檀紙小学校・檀紙幼稚園

・まゆみ幼稚園・高松西保育園

【香南】 香南小学校・香南こども園

【牟礼南】 牟礼南小学校・はらこども園

【牟礼】 牟礼小学校・田井保育所

